

会 議 録

会 議 名	令和5年度第2回東松山市地域福祉計画策定委員会・東松山市地域福祉活動計画策定委員会 合同会議					
開 催 日 時	令和5年11月27日（月）			開 会	午後1時55分	
				閉 会	午後3時10分	
開 催 場 所	東松山市保健センター 1階 大会議室					
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1)第三次計画策定の背景及び策定スケジュールについて (2)市民アンケート調査（案）及び団体アンケート（案）について 4 その他 5 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	0 人		
非公開の理由 （非公開の場合）	/					
参加者出欠状況	委員長	稲葉一洋	出席	委員	福田千賀雄	出席
	委員	戸森健治	出席	委員	須藤博一	出席
	委員	松永政子	欠席	委員	金杉 明	出席
	委員	島野正子	出席	委員	高谷あすか	出席
	委員	奥村一彦	出席	委員	田嶋靖洋	出席
事 務 局	健康福祉部 次長 高荷和良			社会福祉課課長 荻野 裕		
	社会福祉課副課長 鈴木祐二			社会福祉課主査 福島朋和		
	社会福祉課主任 岡安睦実					
	東松山市社会福祉協議会 次長 澤井太二郎			東松山市社会福祉協議会 地域福祉課副課長 内藤高子		

	東松山市社会福祉協議会 地域福祉課係長 神田満紀子	東松山市社会福祉協議会 地域福祉課副主任 武井さとみ
	一財) 日本開発構想研究所 都市・地域研究部長 長島 有公子	一財) 日本開発構想研究所 研究員 大橋 俊平
次 第	顛	末
1 開 会 荻野課長	<p>皆様、こんにちは。本日は公私とも御多用の中、御出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>定刻より前ですが、皆様お揃いですので、ただいまより東松山市地域福祉計画策定委員会・東松山市地域福祉活動計画策定委員会合同会議を始めさせていただきます。</p> <p>私は、本日司会進行を務めさせていただきます社会福祉課長の荻野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、この会議につきましては、東松山市情報公開条例により公開となりますが、傍聴者の申し込みがなかったことをご報告申し上げます。</p> <p>ここで、東松山市地域福祉計画策定業務の受注業者を紹介いたします。</p> <p>「一般財団法人 日本開発構想研究所」の長島担当部長でございます。同じく、大橋研究員でございます。今後委員会で同席させていただきますが、よろしくお願いいたします。</p>	
荻野課長	<p>会議の開催にあたり、稲葉委員長より挨拶をいただきたいと思います。</p> <p>— 稲葉委員長挨拶 —</p>	
荻野課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員の出席状況について御報告申し上げます。本日は10名のうち、出席委員数は9名となっております。従いまして、東松山市地域福祉計画策定委員会条例及び地域福祉活動計画策定委員会設置規程第6条第2項の規定による定足数に達しておりますので、本会議は成立いたしましたことをご報告申し上げます。</p>	

荻野課長	次に、本会議の会議録の作成にあたり、出席委員2名に署名をお願いしたいと存じます。名簿順ということで、本日の会議録につきましては、金杉委員と奥村委員をお願いしたいと思います。後日、署名をお願いいたします。
荻野課長	<p>それでは、議事に入る前に、配布資料の確認をさせていただきます。事務局より説明いたします。</p> <p>— 事務局（鈴木副課長）説明 —</p>
荻野課長	<p>続きまして「3. 議事」に移らせていただきます。</p> <p>議事につきましては、策定委員会条例により、委員長が議長を務めることになっておりますので、稲葉委員長、お願いいたします。なお、議事録の作成の都合上、御発言の際は、氏名を名乗っていただいてから御発言をお願いいたします。</p>
荻野課長	それでは、稲葉委員長、よろしくお願いいたします。
稲葉委員長	<p>それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。</p> <p>本日の議事は2件です。</p> <p>（1）第三次計画策定の背景及び計画策定スケジュールについて （2）市民アンケート調査（案）及び団体アンケート（案）について です。</p> <p>まず議事（1）について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>（1）第三次計画策定の背景及び策定スケジュールについて</p>
福島主査	<p>《第三次計画策定の背景及び策定スケジュールについて社会福祉課から説明》</p>
澤井次長	<p>《地域福祉活動計画策定スケジュールについて社会福祉協議会から説明》</p>
稲葉委員長	<p>本日の委員会を1回目とすると、令和7年1月までに7回の策定委員会を策定することになります。庁内でも議論をしながら意見調整を進めて行き、社協ともかなり打合せを密にしていかないと有機</p>

<p>奥村委員</p>	<p>的なつながりがなかなか持ちにくいと思われます。コンサルとの打合せや調整も出てきます。</p> <p>安倍政権の時に打ち出された地域共生社会政策が基本となっています。いままでの動向が良く整理されていると思ひました。</p> <p>一点教えて欲しいのは、最初の資料の地域福祉計画の背景についての6ページ、社会福祉法第4条が抜粋されていますが、その下で強調されている部分に重層的支援体制整備事業が触れられていますが、市ではどのように捉えているか教えて欲しいのですが。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>重層的支援体制整備事業については、地域福祉だけではなく、高齢者の方でもよく出て来る意見です。事務局の方はいかがでしょうか。</p>
<p>荻野課長</p>	<p>現在、庁内でもこれから調整をしていくこととなります。この事業は以前からあった話ですので、この計画を機にこれから調整を図っていきたくと思ひます。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>この事業については、2021年くらいからのスタートだったと思われます。現在、多くの自治体で今後どうしていこうかということを試行錯誤し、どのような形で着手していこうかということを検討されています。その意味では、社会福祉の上位計画としての地域福祉計画は5年間経っているので、できたら今回これを機に少し進展し取組の姿が見えてくると、包括的支援体制の整備とのつながりでも有益であるという感じを持っています。</p> <p>何かご質問等はあるでしょうか。</p> <p>— 質問等なし —</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>無いようでしたら議事の(2)に移りたいと思ひます。市民アンケート調査及び団体アンケートについてです。事務局から説明をお願いします。</p>

鈴木副課長	<p>(2) 市民アンケート調査(案)及び団体アンケート(案)について</p> <p>《市民アンケート調査(案)及び団体アンケート(案)について事務局から説明》</p>
稲葉委員長	<p>事務局から2つのアンケート、市民アンケート、団体アンケート調査に関して説明が行われました。事前に委員の皆さまに送付していますが、ご意見、お気づきのことがあったらご指摘ください。</p>
須藤委員	<p>市民アンケートのご協力のお願いについて。説明にもありましたように、無作為で2,000人を抽出して調査をすることになっています。当然、2,000人を抽出したリストがつくられ、郵送することになりますが、そうすると悪意を持っていれば個人を特定できることになります。個人が特定できる状態なので、調査票の管理、例えば、どのように保管して何年保管するのか、その情報を今回の地域福祉計画のためだけに使うのか、それとも他でも使うのか、市民アンケートの管理等についてお聞かせ願います。</p>
鈴木副課長	<p>アンケート調査にあたっては、個人を特定しようと思えばできる形でリストをつくりませんが、当然のことながら厳重にアンケートを管理・保管します。保存期間は、回答いただいた調査票のデータ入力については委託事業者が行いますが、入力・集計等の終了後には、市の文書管理で調査票を5年程度保存する予定です。</p>
須藤委員	<p>アンケート調査に係るリストと調査票の照合は行わない、個人を特定した利用も行わないということによろしいですか。</p>
鈴木副課長	<p>今回のアンケート調査の回答については、他の調査での利用は当然しませんし、どなたが回答したかしないかというところについても特定しません。</p>
稲葉委員長	<p>調査票の取り扱いということで、実施する側も気を遣うところであると思います。個人情報の問題もあるので、調査票の取り扱いについては、昔とも相当変わってきています。変わらざる得ない状況</p>

<p>福田委員</p>	<p>の中で、厳密に行っていただきたい。調査票については、きちんと保管し、破棄をするというかたちを取って欲しいです。</p> <p>2点確認したいと思います。まず1点目は、市民アンケート調査の9ページのQ24に「Q23で参加したことはない方」と書いてありますが、この「Q23」は「Q22」ではないでしょうか。</p> <p>次に、事務局から前回から変更があった点を説明いただきましたが、説明いただいた以外には特に前回の調査と変わったところがないのかどうかの確認で、もし変更点があるのであれば、その変更点と変更の理由をお聞かせいただければと思います。</p>
<p>鈴木副課長</p>	<p>9ページの「Q23」については、訂正させていただきます。質問の変更点につきましては、「何々について知っていますか」というような、認知度を問うものを省くという中で、整理をした設問もあります。</p>
<p>島野委員</p>	<p>2点あります。1つは、アンケートが計画策定の参考、策定に向けた実態調査になると思いますが、団体アンケートの調査先は第2次計画策定時の団体と同じか変更があるのでしょうか。</p> <p>もう1つ、第2次計画策定時と状況が非常に変わってきているのが、ヤングケアラーの問題です。最近はビジネスケアラーやジェンダーの問題も出てきています。具体的にどこでどういうアンケートをとったらいいのか分かりませんが、そういう問題に対する市民の意識も第3次計画には入れていかなければならないと思うので、この点は考えていただきたい。質問は最初の1点です。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>一つの質問と一つの意見をいただきましたが、いかがでしょうか。</p>
<p>鈴木副課長</p>	<p>団体アンケートにつきましては、前は7団体に対して実施しており、具体的には地域福祉計画の95ページに記載されています。</p> <p>東松山子育てネット（子育てサークル団体）、ひきねっと（障害者視線）、東松山市国際交流協会（外国人支援）、東松山市シルバー人材センター（高齢者支援）、手をつなぐ育成会（障害者当事者団体）、きらめき市民大学ボランティアクラブ（ボランティア団体）、障害者</p>

<p>稲葉委員長</p>	<p>支援就労支援センター（障害者支援）に対して実施しております。</p> <p>5年前とは対象団体は少し変わると思います。例えばきらめき市民大学ボランティアクラブは既に消滅しているとのことで、早急に別の団体を探すという形で調整させていただきます。</p> <p>もう一つの意見で、具体的にヤングケアラーとビジネスケアラーという言葉が出てきました。いわゆる子育て支援と関わってくるところで、子ども関連の計画に入ってくると思っていますが、地域福祉計画として取り上げるところも多い項目であって、そのような視点を持って押さえていく必要があるという声も多いです。</p> <p>ただ、これをアンケートで対応するのか、どこで対応するのか、事務局での進行状況もあるので、ヤングケアラー、ビジネスケアラーに関する指摘がありました。</p>
<p>島野委員</p>	<p>アンケート調査の中に反映されなかったとしても、せめて、働きながら子育てしている人の問題や、介護で仕事を辞めなければならない人の問題についてヒアリング調査を行うことが、この先の計画策定にあたっては必要ではないかと思います。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>コロナ禍でも、そのような声はありましたが、ここのところ特にコロナの後になって声が大きくはなっていて、地域の議論に出てくることも多い、そのような指摘だと思います。</p>
<p>荻野課長</p>	<p>今お話しいただいた部分については、アンケートというより、庁内で子育て支援課、高齢介護課、障害者福祉課と連携会議を持っているので、その会議で意見を吸い上げながら、反映できればと考えています。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>今回のアンケート調査で全て盛り込むわけではなく、今回調査することで出てくることもあります、それを大事に拾って見ていくということ。</p>
<p>戸森委員</p>	<p>アンケート調査票の14ページ「Q36」の「あなたは、今後地域がより住みやすくなるために、どのような市の取組が特に必要で</p>

あると思いますか。」という中に、「地域福祉推進に向けた取組の中で、あなたは何が必要だと思いますか。」ということをはっきり言っていただきたいです。その中に21の項目、選択肢があるので、子どもの貧困対策や、ケアラーやヤングケアラー、孤立などの話をに入れて、アンケートできちんとやってもらいたいと思います。この項目をもう一回整理して、例えば、市の取組の中でも地域福祉の推進のアンケートなので、犯罪のことはあえて言わなくてもいいのではないのでしょうか、次に福祉避難所などがあるので、もう少し言葉の整理や項目の整理をして、アンケートに反映してもらいたいです。

市民アンケート調査について、無作為で2,000人というのは、このくらいの市民がいるなかで、適切なかどうか。つまり、2,000人を抽出して発送して回収率は何のくらいを想定しているのか。回収率が2割3割であった場合に、どのように反映するかはよく分からないのですが、適切なかどうかということが1点。

それから団体のアンケートについて、市民に対して無作為抽出でアンケート調査を行うのであれば、事業所や企業も団体と捉えられるのではないかと、関係団体だけが対象でいいのかと思います。関係団体だけではなく、一般事業者も対象としてもっと広く実施してもいいのではないかと。また団体も市民調査も、アンケートについて文書で回収するだけでなく、ユニークなアイデアがあれば管理できるはずなので、アンケートを受けた人たちが回答の仕方を選択できるような仕組みにしたらどうかと思います。

第二層協議体などで居場所づくり事業をやっているが、今回のアンケートでは「居場所」についてどこにも設問がありませんでした。ここ何年かで開始した事業等についても入れたほうがいいかと思います。

項目「1」「2」「3」でボランティア活動ときていますが、「4」は「福祉について」となっていますが、1つ1つの出し方にせよ、ちゃんとした言葉を使って、「地域福祉について、あなたの考えを伺います」ということでやるとか、そういうところに注意を払ったほうがいいです。

「Q32」の「あなたは福祉に関する情報をどのように入手されていますか」というのは、「情報入手について」というタイトルをつけ

ればより分かりやすいのではないのでしょうか。その中で「1. 広報など全戸配布の情報紙」となっており、市の広報だけが記されているが、このあとアンケートでは社会福祉協議会のことも出てくるので、括弧して（東松山市社会福祉協議会など）とするとか、社協広報紙「すまいる&ピース」とはっきり書いてあったほうが、アンケートを受け取った方も分かりやすいのではないですか。

それから「いんぷおメール」と言われてもピンとこない人もいると思うので、例えば、「市のお知らせメール」とか、分かりやすくした方がいいと思います。選択肢「11」と「12」はちょっと違うと思います。一つ、どの程度入手できていますか、できているのですか、できていないならばどうなのですか、という設問を加えた方がいいと思います。

「Q33」は、成年後見制度の質問ですが、あなたは成年後見制度を知っていますかということで、その次の質問に関しては、成年後見センターについても説明があった方がいいと思います。そのような説明を丁寧にやらないと、もらった人も分からないだろうと思います。

「Q37」で社協の質問が出てきますが、ここは「知っていますか」というところの項目は、社協についてだと分かるようにした方がいいと思うので、もう少し工夫してもいいのではないのでしょうか。

「Q41」についても、あなた自身がお住まいの地域のためにできることを聞いていますが、市としては、これも書いてもらいたいのではしょうけれども、地域福祉に関してのご意見要望等をまず聞いて、それからではないのかなと思います。この質問に関しては、2段階くらいあってもいいのではないかと思う。一つは、ご意見やご要望を聞いて、そしてあなた自身が何かできることがあったら書いてください、という形がいいのではないか。

色々と言ったが、アンケートの内容等についても一工夫していただいたほうが、アンケートを受け取った方が分かりやすいのではないかと思います。以上です。

稲葉委員長

戸森委員、メモがあったら事務局に渡していただいて、検討いただきます。せっかくそこまで目を通していただいているのですから、

戸森委員	<p>そうのようにしていただければありがたいと思います。</p> <p>今回、せっかくアンケートを行うのであれば、出すほうは分かっているけど受け取るほうがいかに工夫したほうがいいのかということですね。</p>
稲葉委員長	<p>今のご意見は、アンケート調査におけるそもそもの基本のイロハのイで、聞かれた人が分かって答えてよかったね、と思えるような調査をやっていくことが重要。知りたいことだけではなく、聞かれた方が答えられる調査をつくっていくことが大切なことです。</p>
荻野課長	<p>ただいまの質問で、まず発送件数についての詳細を委託事業者から回答するが、本市の場合、市民意識調査等でも2,000件で実施しているので、数値的には妥当であると考えています。アンケートの内容、先ほどの説明の部分に関しては、アンケート実施前にもう一度、調査票をお示しする機会があります。今日いただいたご意見を具体的な設問になるように検討させていただき、次回お示したいと思います。</p>
日本開発構想研究所 長島部長	<p>先ほど調査対象の件数についての質問ですが、国の世論調査等でも1億人を対象として5,000人程度です。統計としては充分です。東松山市の人口9万人のうち2,000人を対象としており、回答率が約6割とかなり高い調査になっており、クロス集計が可能で、統計的には十分だと考えています。</p>
須藤委員	<p>7団体に絞ってアンケートを取るという話ですが、7団体で意見をとっても偏ったかたちになるのではないかと思います。共生社会の中で、自治会、シニアクラブ、商店、ボランティアの方、PTAの方々もいろいろな地域活動を行っています。ただただ恩恵を受けているだけではなく、この地域の福祉活動も含めて活動してきています。その辺も含め、各団体にも広げて意見をお聞きしたほうがいいのかと思っています。例えば、シニアクラブでは連合があって、その下に6地区があって、その下に単位クラブが70もあります。各地域にあるので、例えば、シニアクラブの会長、自治会</p>

<p>稲葉委員長</p>	<p>長等に聞けば、地域の特性も出てくるし、いろいろと意見をうかがえるとと思います。もっと広げていただければ、もっといい計画ができる意見がお聞きできるのではないかと私は思っています</p> <p>今の意見というのは、つまり団体調査のところ7団体だけではなく、もうちょっと広げて聞いてもいいのではないかとという提案でした。先ほど荻野課長から、次回の会議でもう一度示す機会があるというお話があったので、事務局の方で検討か今お答えいただくか、どちらかにしていただければと思います。</p>
<p>荻野課長</p>	<p>先ほども申し上げましたが、須藤委員のご意見も踏まえて、次回、団体アンケートについてもお示しさせていただきたいと思えます</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>今日いただいた意見を踏まえて検討するという事です。</p>
<p>須藤委員</p>	<p>団体アンケートの内容も少し広く意見をいただけるように、記入式ではなく、もう少し簡単に集められるような形をとっていただきたい。○をつけるなど。そうすれば、結構アンケートに答える人が増えるのではないかと思います。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>団体アンケートについて自由回答が多いというご意見ですが、対象として7団体しか対象としていないということは、かなり深く聞くからではないでしょうか。選ぶというよりも、事前の回答を参考にしながらヒアリング調査を実施しようとしている。ですから、対象の絞り具合によってもまた違ってくるところもあるのかなと思います。それを含めて、事務局で検討いただければと思います。</p>
<p>高谷委員</p>	<p>この調査が18歳以上からということだったので、10代の方がこの調査票に回答したらどうだろうか、20代の方がこれを回答するときにならうだろうかというふうに考えました。高齢になればなるほどここにあるものは比較的触れていて答えやすい。ただ、10代20代30代で家庭を持っていない人たちに、これを答えてもらおうとなったときに、答えづらいところもあると思います。</p>

	<p>成年後見制度については注釈が入っていましたが、例えば「8050」という言葉ですが、これを10代の方が知っているかという と、知らない可能性が高いのではないのでしょうか。だから、下に注 釈や全年齢が答えやすいように工夫をするということがいいのでは ないかと思います。</p> <p>若い方は、なかなか自分の弱くなった時の姿を想像しづらいと思 います。漠然とその時に30代でも東松山にお一人で生活している 方もいらっしゃると思います。そういう方たちが困った時に相談できる相 手がストレートにいるのかどうか、そういう時に相談したくても相 談先が見つからずに問題が大きくなっていってしまうってこともあ るかと思うので、若い方が答えやすいような項目にしたらいいいので はと思いました。</p>
稲葉委員長	<p>ありがとうございました。他にいかがでしょうか。</p>
須藤委員	<p>アンケートのまとめについてですが、このまとめは委託事業者が 全て行って市に納品するのか、分析をして市に納品されるのか。市 は、集計・分析結果を受け取り、それに対して内容を精査するの でしょうか。</p>
荻野課長	<p>基本的には策定委員会で、アンケートなどの報告書というかたち でまとめたものを提示させていただくことを考えています。</p>
須藤委員	<p>この委員会の中でも一応検討するというかたちということが分か りました。</p>
金杉委員	<p>民生委員をしております。第3次東松山市地域福祉計画というか たちの中で、皆さんからお話いただき、私も聞かせていただきました。 世の中の流れに耐えられるような計画というのが多分必要だと思 います。この計画を立てて実行していく数年間、この間に実は世 の中がものすごく変わっていく、例えば、先ほども話に出たヤング ケアラーの問題は10年前には全く想定されなかったし、LGBT もそうです。これからも、そういう想定されないものが地域やある いは国全体でも出てくるのだろうか、とここ数年特に感じています。</p>

<p>稲葉委員長</p>	<p>高齢者社会においても、実はいろいろなかたちが変わっています。この時代にこれだけ多くの高齢者が出てくるということは予想されたけれども、それに対応する担い手側の人間がこれほど少なくなる。自治会の役員もそうだが、民生・児童委員もそうです。こういう世の中で、地域福祉計画について考えていくのはなかなか難しいと思っています。高齢者から子どもたちのことまで踏まえて計画を立てていく中では、多少の時間が経っても、耐えられるような計画をぜひ私たちも考えていきたいと思っています。</p> <p>担い手ということを言われていましたが、たまたま一昨日、あるところの社協の地域福祉活動計画の調査結果を見ていたら、団体調査をやっていました。そこでは、自治会関係者、支部社協関係者、福祉関係の事業者に調査を実施しており、3つとも言われているのが、地域のつながりがやはり弱くなっていることと、もう一つは担い手不足ということでした。特にコロナ禍でかなり担い手不足に拍車をかけているのではないのでしょうか。やはり次の計画では、金杉委員が言われたようなことを捉えてどうやって判断していくのか、担い手を確保していくのか、つながりにもこだわっていくのが大切だな、と思いました。</p>
<p>稲葉委員長</p>	<p>この案件については、引き続き事務局の方で今日の議論を踏まえて検討いただき、次回の会議で出していただくこととなります。本日予定していた議事は以上で終了します。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。</p>
<p>荻野課長</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、次第「4. その他」ですが、事務局より御説明させていただきます。</p>
<p>鈴木副課長</p>	<p>今回いただいたご意見を基に事務局において課題を整理し、次回の策定委員会に再度諮りたいと思います。次回の策定委員会については、来年1月中旬頃を目途に開催を考えております。一部の委員には日程の調整等配布しておりますが、改めて日程調整しますので、よろしく願いいたします。</p>

荻野課長	最後に、閉会の御挨拶を、健康福祉部次長高荷より申し上げます。
荻野課長	<p style="text-align: center;">— 高荷次長挨拶 —</p> <p>長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。これを持ちまして、本日の合同会議を閉会とさせていただきます。</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和6年1月29日 署名委員 <u>金杉 明</u></p> <p style="text-align: right;">署名委員 <u>奥村 一彦</u></p>	